

2019年度 庶務報告

〔1〕 会員異動

2019年度末における会員総数は8,407名である。

内訳 医師6,961名、歯科医師65名、薬剤師690名、鍼灸師392名、
研究職22名、看護師会員12名、特別会員40名、賛助会員225名。

2019年度中の新入会員は300名、退会者は357名であった。

〔2〕 会議

2019年度における会議は次のとおり行われた。

理事会 8回

総会 1回

各委員会における会議開催は、それぞれの委員会の事業報告に記載した。

〔3〕 各支部との交流

北海道支部会（札幌市）

2019年10月20日（日）

東北支部会（山形市）

2019年10月27日（日）

関東甲信越支部会（宇都宮市）

2019年11月17日（日）

東海支部会（名古屋市）

2019年11月17日（日）

北陸支部会（富山市）

2019年10月20日（日）

関西支部会（豊中市）

2019年10月20日（日）

中四国支部会（岡山市）

2019年10月14日（日）

九州支部会（佐賀市）

2019年11月17日（日）

2019年度 事業報告

機関誌発行事業

〔1〕 編集委員会（担当理事：貝沼茂三郎、委員長：植田圭吾）

1. 学会誌を下記の通り発行した。

第70巻第2号 2019年4月

第70巻別冊号（学術総会講演要旨集） 2019年6月

第70巻第3号 2019年7月

第70巻第4号 2019年10月

第71巻第1号 2020年1月

2. TRADITIONAL & KAMPO MEDICINEを下記の通り発行した。

Volume6 Issue1 2019 2019年4月

Volume6 Issue2 2019 2019年8月

Volume6 Issue3 2019 2019年12月

3. 2019年6月30日、9月20日、2020年3月6日の計3回委員会を開催し、2019年6月12日、9月3日、9月10日、11月24日、12月20日、2020年1月29日、2月13日の計7回メール会議を開催した。

4. 70年史を第71巻第1号に合本した。

調査研究事業

- [1] 健康保険担当委員会（担当理事：金倉洋一、副担当理事：矢久保修嗣、委員長：玉嶋貞宏）
 1. 2019年9月7日に委員会を開催した。
 2. 東海地区で2019年11月4日に漢方市民講座を開催した。また、関西地区、九州地区、関東甲信越地区でも開催され、市民への啓蒙活動を行った。
 3. 2019年11月18日、名古屋で自民党選出国会議員との勉強会を開催した。会長も出席された。
 4. 元厚生労働大臣の塩崎恭久議員を会長と訪問し、学会活動について助言を求めた。
 5. 第70回総会で健康保険担当委員会主催のシンポジウムを行った。
 6. 第70回総会で厚労省の古元重和企画官による講演を行った。
- [2] 学術教育委員会（担当理事：喜多敏明、委員長：福沢嘉孝、副委員長：南澤潔）
 1. 2019年5月29日、9月11日、11月27日、2020年1月30日の計4回委員会と、大学教育支援WG及び情報発信WGを開催した。
 2. 情報発信事業を推進するために、プライマリ・ケア関連の医師に向けた「漢方に対する疑問点のアンケート調査」を実施し、本学会として発信すべき情報をQ&A形式で整理する作業を進めた。また、第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（2019年5月19日）およびWONCA Asia Pacific Regional Conference 2019（2019年5月16日）において共同企画を開催した。2020年5月に開催される第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会における共同企画の準備を進めた。
 3. 大学における漢方医学教育を支援するための指導医派遣事業を推進するために、「第3回漢方医学教育サポート指導医に関するアンケート調査」を実施し、日本漢方医学教育協議会が作成した基盤カリキュラムを基に検討を進めた。基盤カリキュラムに準拠したテキスト（模擬講義スライドを含む）の完成後に、各大学の講義内容の均一化を図ることを目的として、アンケート調査結果を活用する方針とした。サポート指導医に対して、第71回の当学会学術総会特別企画「次世代に継ぐ卒前卒後漢方医学教育」への参加呼びかけをメールで実施した。
 4. 学生の活動を支援するために、第70回の当学会学術総会において学生セッションを企画・開催し、126名もの多数の参加を認めた。引き続き、第71回学術総会において「東洋医学」研究会・サークル交流プログラムを企画し準備作業を進めた。
- [3] 鍼灸学術委員会（担当理事：若山育郎、副担当理事：高山真、委員長：篠原昭二）
 1. 第70回学術総会期間中に「医師・鍼灸師を対象とした鍼灸に関するアンケート」を実施した。
 2. 第70回学術総会において、「医師のための鍼灸セミナー」及び「医師と鍼灸師のための鍼灸セミナー」を開催した。
 3. 日本経絡経穴研究会の活動に協力した。
- [4] EBM委員会（担当理事：元雄良治、委員長：小暮敏明）
 1. 2019年6月30日に委員会を開催した。
 2. 漢方治療エビデンスレポートEKAT 2016について、学会ホームページに全公開。英語版は現在作成中。また、Appendix 2017、2018についても2020年3月公開予定。EKAT 2019については、構造化抄録（SA）の作成を終了した。
 3. 漢方製剤の記載を含む診療ガイドライン KCPG Appendix 2018 を2019年8月に公開。KCPG 2019は、2020年3月に全面改訂し、公開予定。
 4. 漢方のRCT論文の記載を充実させるための漢方製剤情報サイト「STORK」のホームページについては、JP17の第一追補、第二追補の内容を追加する準備を行っている。
- [5] 用語及び病名分類委員会（担当理事：星野卓之、副担当理事：並木隆雄、委員長：津田篤太郎、副委員長：奥見裕邦）
 1. 2019年6月11日、9月24日、10月29日、12月11日、2020年1月22日、2月13日の計6回WHO国際統計分類センター会議として委員会を開催した。

2. 第70回学術総会において「JLOM・用語委員会・辞書編纂委員会合同シンポジウム」を開催した。本委員会からは、漢方（矢久保修嗣委員）と鍼灸（斉藤宗則委員）の2演題を発表した。
 3. ICD-11 伝統医学の章関連
 - 1) 2019年5月28日に第72回世界保健総会（WHA）はICD-11を承認し、伝統医学の章は26章Supplementary Chapterとして導入された。
 - 2) 日本提案の内容を含む記述（40項目）について和訳案を作成し、委員会内での意見集約を進め、学会ホームページで公開する検討を行った。
 - 3) WHO-FIC2019年次会議（10月7-10日カナダ・バンフ）に出席し、伝統医学リファレンス・グループ（TMRG）を中心に、渡辺賢治活動責任者・星野卓之担当理事・斉藤宗則委員が出席し、発表を行った。
 - 4) 2020年2月20日にJLOM主催による「WHO/ICD-11改訂版における伝統医学の章新設記念講演会」が開かれ、本委員会は企画・運営に関わり、星野卓之担当理事・斉藤宗則委員が講演した。
 4. 各種外部委員会出席
 - 1) 9月19日「2019年度第2回WHO-FIC協力センター会議」（星野卓之担当理事・矢久保修嗣JLOM事務総長）。

WHOの法務体制見直しに伴い民間団体はWHO-FIC協力センターから外れるため、今後は日本WHO国際統計分類協力センター協力ネットワークとして同じメンバーで活動することとなった（2020年2月末現在、規定案確認段階）。
 - 2) 12月17日「2019年度日本医学会分科会用語委員会」（星野卓之担当理事）
- [6] 辞書編纂委員会（担当理事：並木隆雄、委員長：天野陽介）
1. 2019年9月18日、2020年1月28日に委員会を開催した。
 2. 漢方用語辞書作成作業
 - 1) 用語の追加・削除、および意味・英訳の制作と確認。
 - 2) 『漢方用語辞書』のパブコメの実施。

【媒体】和漢医薬学会との合同英文誌（TKM）で辞書の活用を考えているため、本学会と和漢医薬学会ホームページ、メールマガジン。

【期間】2019年11月1日から12月15日。

【対象】会員、非会員は問わないが、非会員は会員を通して提出。

【結果】本会から3名と和漢医薬学会からまとめたものが送られて、修正加筆を行った。
 - 3) 体裁装丁について。
 - ・ 出版社からの見積りが提出され、体裁等について検討した。サイズはB5版とすることで意見が集約された。装丁については担当理事と委員長で検討し決定した。
 - 4) 『漢方用語辞書（基本用語）』という名前になり、本年度末発刊と決定した。
3. 生薬の薬能についてのワーキンググループが活動継続した（責任者：牧野利明委員）。
- [7] 生薬原料委員会（担当理事・三谷和男、委員長・山岡傳一郎）
1. 2019年5月12日、12月15日に委員会を開催した。
 2. 第70回学術総会のライブ生薬原料委員会（6月29日）を開催した。
 3. 新しく、牧野利明委員、川崎武志アドバイザーに新規参加いただいた。
 4. 委員会活動について。

- ・高橋京子委員が、本学会誌に「生薬原料委員会報告（Committee for Raw Materials of Crude Drugs）医師の湯液処方に対する認識および生薬使用量の実態に関する調査」を投稿し掲載された。
 - ・川嶋浩樹アドバイザーから、農研機構の農林水産省委託プロジェクト「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術開発」では、薬用作物の高品質化、低コスト化及び生産の安定化を可能とする技術開発の取り組み、収益性向上や作業時間の削減に向けた調査等、農業者が利用しやすい成果を発信する事業を行っていることが報告された。
 - ・池上文雄委員から、一般社団法人日本薬用機能性植物推進機構の事業として、南三陸町で行っているトウキ栽培について報告がされた。
 - ・森寛敬アドバイザーから、薬用作物の産地形成を促進するため一般社団法人全国農業改良普及支援協会及び日本漢方生薬製剤協会により設立され、農林水産省の補助事業として農作物の産地支援に努めている薬用作物産地支援協議会のホームページに産地化の事例が掲載されていることが報告された。
5. 今後も安定した生薬治療をできるよう継続努力することを審議した。

学術交流事業

〔1〕国際委員会（担当理事：矢久保修嗣、副担当理事：若山育郎、委員長：小川恵子）

1. 2019年6月16日、8月18日、11月20日、2020年1月29日の計4回委員会を開催した。
2. 2019年5月7日～10日にオーストラリア・ブリスベンで開催された14th International Congress on Complementary Medicine Research (ICCMR) で漢方シンポジウムを開催した。なお、報告書を日本東洋医学雑誌に掲載予定である。
3. 第70回日本東洋医学会学術総会にて、国際シンポジウムを行った。
「伝統医学の世界における実情」
Bernd Kostner先生、Iman Majd先生をお招きし、ヨーロッパとアメリカ合衆国における伝統医学の実情についてお話しいただいた。
「日韓学術交流シンポジウム」
SKOMとの交流10周年記念行事として、佐藤弘会長より記念品と感謝状が贈呈された。
4. 全国韓医学学術大会。
2019年9月29日に韓国・大田で「傷寒論（Shanghan Lun）処方の臨床応用」をテーマに開催された。これまで全国韓医学学術大会での講演内容の記録がないため、講演内容を纏めた論文をTraditional & Kampo Medicine (TKM)に投稿することが提案された。また、学術交流シンポジウムに関する覚書が調印された。
5. 英文版入会申込書作成。
英文版の特別会員用入会申込書を作成した。完成した入会申込書を運営委員会に提出する際に、特別会員の入会金減額についても検討を依頼することとした。
6. International Society for Japanese Kampo Medicine (ISJKM)
2019年9月6～7日にドイツ・ハンミュンデンで開催された5th ISJKMについて、伊藤隆会長による参加報告書を会報に掲載予定である。
また、ライセンウェーバ会長からの資金援助依頼に対して、本学会として今後もISJKM支援を続けることを確認した。
7. 第71回学術総会(仙台)及び全国韓医学学術大会（2020年8月9日韓国・光州）における日韓学術交流シンポジウム。
テーマを「加味逍遙散」とし、公募にて4演題を採択した。
8. その他
アメリカ公衆衛生学会、American Public Health Association (APHA) に統合・伝統医学部門が設立されたため、招待に応じて参加した。
ウズベキスタンなど、視察団の訪問依頼や学会との連携依頼があり、海外からの訪問依頼等があった場合の対応について検討した。

- ・ 施設見学の希望があった場合は、北里大学東洋医学総合研究所を紹介する。
- ・ 施設研修の希望があった場合は、アンケートにて協力の意思表示があった施設を提示し、紹介する。

新たに、森田智（千葉大学大学院医学研究院和漢診療学）の委員委嘱及び、金成俊（横浜薬科大学漢方薬学科漢方治療学研究室）のアドバイザー委嘱をお願いした。

学術総会・支部事業

〔1〕第70回学術総会（会頭：花輪壽彦、準備委員長：小田口浩）

1. 2019年6月28日（金）、29日（土）、30日（日）の3日間に亘り、花輪壽彦会頭のもと、京王プラザホテルにて開催した。参加者は4,021名であった。

〔2〕支部例会

1. 全国8つの支部において支部学術総会及び都道府県部会（学術講演会）を開催した。

認定事業

〔1〕専門医制度委員会（担当理事：柴原直利、副担当理事：若山育郎、委員長：貝沼茂三郎、副委員長：岡洋志、栗山一道）

1. 4月21日、7月10日、8月24日、10月27日、2020年1月25日、3月8日の計6回委員会及びメール会議を開催した。
2. 2019年度専門医試験を11月24日に行い、84名が受験し70名を合格とした。
3. 2019年度認定医試験を11月24日に行い、6名が受験し4名を合格とした。
4. 漢方専門医更新対象者1,051名の内、更新要件を満たす686名の更新及び、更新申請者からの申請により4名の認定医への更新を認可した。
5. 認定医更新対象者60名の内、更新要件を満たす35名の更新を認可した。
6. 各地区において教育事業を開催した。
7. 研修施設及び指導医の審査・委嘱を実施し、その整備充実を図った。
8. 第70回学術総会プログラムにおいて指導医講習会、専攻医のための説明会、医療倫理・医療安全講習会を実施した。
9. 専門医通信を2回発行した。
10. 学会ホームページに掲載している専門医情報の整備を図った。
11. 一般社団法人日本専門医機構への申請に向け研修プログラムを整備し、研修システムの充実を図った。
12. 「問題と解説」の改訂作業を進めた。
13. 専攻医登録のシステム化を進めた。
14. 日本専門医機構への対応を引き続き検討した。
15. eラーニングのコンテンツとして医療倫理・医療安全講習会の動画を公開し、専門医・認定医更新や受験の際の更新点数および受験単位とした。

管理事業

〔1〕運営委員会（企画担当理事：山田和男、財務担当理事：小菅孝明）

1. 2019年4月22日、7月22日、9月2日、11月25日、2020年2月10日、3月16日の計6回の委員会及び70年史発刊ワーキンググループを開催した。
2. 2020年度予算を纏め、理事会に上程した。
3. 2019年度決算を纏める作業を行った。
4. 第71回定時社員総会に推挙する名誉会員について審議し、理事会に上程した。
5. 第76回学術総会候補地について検討し、理事会に上程した。
6. 70年史を発刊した。
7. 日付表記の方法について検討した。
8. 特別会員の入会申込書の英語表記について検討した。
9. 特別会員の入会金について検討した。

10. 会員カードを使用した入退室システム導入について検討した。
 11. 会員管理システムの再構築を行う業者を選定し、理事会に上程した。
 12. アジア健康構想について検討し、理事会に上程した。
 13. 特別ワーキンググループの設置について検討し、理事会に上程した。
 14. ウズベキスタン共和国との交流について検討し、理事会に上程した。
 15. 会費の振込費用を自己負担とすることについて検討し、理事会に上程した。
 16. 学術総会開催におけるコンベンションとの業務委託契約について検討し、理事会に上程した。
 17. メールマガジン運用管理規程案を纏め、理事会に上程した。
 18. 支部・都道府県部会におけるランチョンセミナーの企業と共催に対する審査内規を一部改訂し、理事会に上程した。
 19. 主催・共催・協賛・後援等の取扱い細則を改訂し、理事会に上程した。
 20. 各種激甚災害に対する会費免除案を理事会に上程した。
 21. eラーニング合同委員会のメンバーとして、eラーニング事業を推進した。
 22. 他団体からの依頼を検討し、理事会に上程した。
 23. 理事会からの諮問事項について検討した。
- 〔2〕 広報委員会（担当理事兼、委員長：八重樫稔）
1. 2019年10月26日に委員会を開催した。
 2. ホームページへのアクセスの動向について解析を行った。
 3. ホームページの改修について検討した。
 4. メールマガジン運用管理規定について確認を行った。
 5. ホームページへの掲載依頼について検討し、実施した。
 6. メールマガジンの配信について検討し、実施した。
- 〔3〕 倫理委員会（担当理事兼、委員長：稲木一元）
1. 2019年9月29日に委員会を開催した。
 2. 本学会の倫理綱領に以下の加筆・修正を加えることで意見が集約された；①第三条「人権の尊重」を「人権の尊重と説明責任（アカウンタビリティ）」とすること。②制定文言を、現行の「本倫理綱領は、2007年6月15日、社団法人日本東洋医学会第58回通常総会において採択する」から「2007年6月15日 第58回通常総会 制定」とすること。以上の改訂案は、第6回理事会（2019年12月8日）に審議事項として上程され、承認可決された。
 3. 本学会としては、倫理審査を行わないことを確認した。倫理審査については、日本医師会倫理審査委員会等を学会ホームページで紹介する案が提案された。
 4. 倫理規程について検討した結果、本学会では、「コンプライアンス規程」「会員の懲戒に関する規程」「利益相反（COI）に関する指針」「利益相反（COI）に関する指針の細則」等で倫理について規定されていることが確認された。そこで、本学会としては、当面は倫理規程を策定しないことが確認された。
- 〔4〕 利益相反（COI）委員会（担当理事兼、委員長：高山真）
1. 10月7日にメール会議を開催した。
 2. 編集委員会から論文をオンライン投稿（和文誌）する時に、オンライン投稿システムにアップロードしていた利益相反（COI）申告書をシステム上で申告することについて承認した。
- 〔5〕 コンプライアンス委員会（担当理事兼、委員長：並木隆雄）
1. 2020年3月13日に委員会の開催を予定したが、新型コロナウイルスの流行のため、4月以降に延期になった。
 2. 次回の委員会での円滑な検討ができるように、委員長を中心に下調べを継続した。
- 〔6〕 医療安全委員会（担当理事：田原英一、委員長：地野充時）
1. 2019年8月25日、12月22日に委員会を開催した。
 2. 第70回日本東洋医学会総会において、医療安全委員会主催の「漢方薬の副作用に関

- するシンポジウム」を開催した。
3. 漢方薬に関するヒヤリ・ハット事例を解析するにあたり、漢方治療を専門に行う全国19施設に依頼を行い、漢方領域におけるインシデント・アクシデント事例の実態予備調査（アンケート調査）を行った。
 4. 『漢方薬による副作用（偽アルドステロン症、薬物性肝障害、薬物性肺炎）について—日本東洋医学会医療安全委員会活動報告（2019）—』を日本東洋医学雑誌に投稿し受理された。
- 〔7〕提言書検討委員会（担当理事：木村容子、委員長：石田和之）
1. 第70回学術総会（6月30日9:00-11:00）で「がんの支持療法としての漢方の役割とエビデンス」をテーマに提言書検討委員会第1回シンポジウムを開催した。基礎分野を上園保仁先生、臨床分野を元雄良治先生、症例報告を西内崇将先生にご講演いただいた。漢方治療が、がん治療に伴う有害事象に対する症状軽減（食欲不振、倦怠感、しびれ、口内炎など）や、再発への不安も含めた精神的なサポートに役立っていることが報告された。
漢方治療は心身一如に基づく全人的な医療であり、今後はQOLの改善を通じて健康寿命を延ばす効果の裏付けをすることが重要である。
また、中心処方のエビデンス構築から随証治療への発展をする上で、今後は“フェノタイプ”と”証”の整合性研究による漢方個別化医療の推進が必要であり、このことは漢方薬のポリファーマシー抑制にも寄与すると考えられた。
- 〔8〕定期刊行物（担当理事：久永明人）
1. 会報を2019年4月、7月、10月、2020年1月の年4回発行した。

事業報告附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の附属明細書として記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。